

シリーズ — 召命 —
どうして神父さまに !!

森田直樹 神父



今回は京都教区司祭森田直樹神父にお話を伺いました。

(2009年6月〜2010年6月に、掲載したシリーズの続編です)

○は編集子 ●は森田神父

○ カトリックとの出会いを聞かせてください。

● お寺の幼稚園から公立小学校に進み、洛星中学に入ってから、カトリックに触れました。イエスのお言葉に感銘を受けましたが、反抗期真っ只中に入ると、神父様方にも反抗し、宗教の成績が五段階の2だったこともありま
す。高校一年生の前後に、ローマ教皇ヨハネ・パウロ二世が来日されたり、親族の死を体験したりすることが重なり、洗礼を受けることを考えました。信者の友達に紹介してもらって、東門神父様の入門講座に通い、高校二年生



日本カトリック聴覚障がい者の会・名古屋大会 講演

○ のクリスマスに洗礼を受けました。神父様になろうと思われたお話をお聞かせください。

● 洗礼を受ける頃と時期は重なるのですが、高校一年生の倫理社会の先生が、藤堂神父様でした。初夏の暑い日、おそらくご葬儀の帰りに学校にいられたのだと思いますが、黒いローマンカラーの礼服を私たちの前でお脱ぎになりました。ジレというのですが、金太郎さんの前掛けのような司祭の衣

装を目の当たりにして、大笑いしたのを覚えています。同時に、飾ることなくご自分をさらけ出された神父様に心惹かれるものがあり、「神父様の本職を見に教会に出かけても良いですか」とお願いしました。残念ながら、その翌年、神父様はガンで帰天され、これはかないませんでした。神父様の葬儀は学校の授業があって、参列できませんでしたので、お通夜の席に参列しました。ロザリオの祈りの間、おばさま方のヒソヒソ声がどこからか聞こえてきました。「藤堂神父様が亡くなって、京都教区も司祭が少なくなるわね」と。そんな声を聞いて、「こんな僕でも神父になれるのだろうか」と思ってしまったのが、司祭召命のきっかけです。

○ 神学生になられてからの話を聞かせてください。

● 1984年に名古屋の南山大学文学部神学科に入学し、神言神学院でお世話になりました。宣教修道会の神学校でしたので、外国から帰国した神父様



方の話を聞いたり、外国からの神学生と触れ合ったりする機会がありました。1990年に東京カトリック神学院に転校し、二つ目の神学院生活を過ごすことになりました。勉強はそこそこだったのですが、生活態度があまり良くなくて、神学院からの評価が悪く、司祭叙階前には一カ月の黙想を田中司教様から命じられました。こんな私が司祭になるのは、やはりふさわしくないのだ、と落ち込んでいたのです



枝の主日 東仙台教会

が、ちょうど、冬から春へと季節の変わり目が体験できた黙想で、死んだように見えていた木々や芝生も、見事に芽吹いていく様を目の当たりにして、私も確かに神の招きと恵みをいただいているのだ、と確信させていただいた時でもありました。

○ 司祭になってからどうでしたか。
● 初めての任地は、三重県の津・久居教会助任司祭でした。セントヨゼフ女子学園でも教えることができたので、



大船渡教会 ブロック・ロザリオ会ミサ

先生方との楽しい交流を深められた日々を過ごしました。京都に戻ってから、教区本部事務局でもご奉仕しましたが、京都教区の法人規則を改正したり、司祭給与分担金の制度を考えたりと忙しくも充実した五年間を過ごしました。アメリカで勉強する機会を与えられた後、東日本大震災・大津波が起こり、仙台教区でご奉仕することになりました。大船渡教会で一年半ご奉仕した後、仙台に移り、今年で6年目を



迎えます。

○ 今のお気持ちをお聞かせください。

● 司祭になった時、田中司教様から「司教に金を願わず、願われた仕事は断らず」と、教えていただき、それを守っていたら、あっという間に25年が過ぎてしまいました。今年は司祭銀祝の年ですが、皆さまのお祈りにいつも助けられているのだと思います。今までのお祈りに感謝申し上げます。今にも、これからも、お祈りをよろしくお願いいたします。